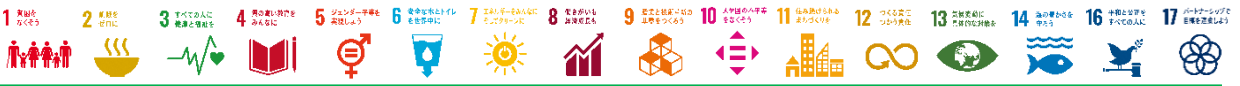


シリーズ豊前市 SDGs とは？ “誰一人取り残さない持続可能な社会”を実現する世界共通目標である SDGs。全部で 17 個ある SDGs の目標を、地域の視点を取り入れ、そして一人一人ができる取組事例を取り入れて、毎月 1 つずつご紹介していく 2022 年 1 月から開始した連載です。地域の未来のために、私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める最初の第一歩。毎月 SDGs を一緒に学びながら、**自分にできることを一緒に始めていきましょう。**

目標 15 「陸の豊かさを守ろう」 ～土地が悪くなることを止めて、再生する。たくさんの種類の生き物が繋がって生きている多様性を守る～

世界の陸地面積の 3 分の 1 が森林です。豊かな森は生き物が暮らすという場所だけでなく、酸素や土を作り、水をたくわえます。しかし今この森林が、1 年間で約 470 万ヘクタール以上失われています（※「Global Forest Resources Assessment 2020 (FAO)」より）。福岡県の森林面積が約 22 万ヘクタールなので、毎年およそ福岡県の森林約 21 個分が失われていることとなります。豊かな自然と暮らしていくためには、森を守り、再生していく行動が必要です。森林が失われていることで生物多様性（地球上に生きる動植物、自然全てのつながり）のバランスも壊れ始めていて生物の絶滅スピードは加速しているといわれています。皆さんは 1 年間でどのくらいの生き物が絶滅しているか知っていますか？地球上では年間 4 万種もの生物が絶滅しています。これは、1 日で 109 種、1 時間で 4.5 種、13 分に 1 種の生物が絶滅していることとなります。生物多様性のバランスが守られ生き物が共存することで地球はこれまで持続してきました。森を守り生物多様性を守ることは私たち人間の未来を守ることに繋がります。生き物たちが暮らす自然を守るために出来ることを考えましょう。



豊前市の取組 | 「里山の自然を守る」 野生鳥獣の管理、樹木の間伐など 豊前の豊かな里山の自然を守る取組

日本は世界でも有数の生物多様性に富んだ国です。国土の 7 割を森林が占める日本には、昔から自然と人間の暮らしをつなぐ場所として里山があります。畑や田んぼが広がる里山は、人が手を加えた自然の環境です。里山は、野生の生き物と人が共に暮らす、中間地帯のような役割を果たしてきました。しかし今日本では荒れた里山が増え始めており、住む場所を失われた生き物たちは、食べ物を探して人里に出没することが多くなりました。

豊前市では、豊前の豊かな里山の自然を守る取組をしています。代表的な取組が「間伐」と「ジビエの活用」です。定期的な間伐を行って、森林の持つ水源涵養機能、土砂災害防止機能、生物多様性保全機能などを増進させて、里山の再生を進めています。また、年々農作物への鳥獣被害が拡大している対策として進めている野生鳥獣の捕獲と、捕獲した野生鳥獣を有効活用するために、ジビエを普及させる取組も進めています。丁寧に処理をしたジビエはホテルの料理で活用されることもあります。道の駅やうみてらすでも販売していますので、ぜひご賞味ください。

お問合せは 農林水産課 森林水産係 ☎82-8038

SDGs の主人公はわたしたち 身近なところにある SDGs 一人一人ができる取組事例

目標 15 「陸の豊かさを守ろう」は「陸の生態系を守り、再生する。土地が悪くなることを止めて、再生する。たくさんの種類の生き物が繋がって生きている多様性を守る」ことを目指す重要な目標です。今回ご紹介する取組以外にも、個人でできる取組はたくさんあります。まずは新聞や公共施設など周囲に目を向け、身近に自分ができる取組が紹介されていないか、そしてヒントが隠れていないか探し、できることから始めましょう。

<わたしたちにもできること>

- ① 学校や地域でやっている植樹活動や森づくり、田んぼの生き物調査などに参加してみる
- ② 環境に配慮した製品「FSC 認証※」を選ぶようにすること（※持続可能な森林管理の証）
- ③ 陸の命の大切さや、私たちのどのような行動が陸の命を脅かしているか考えてみる

株式会社二コソ日総プライム 水谷洋司(英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー)

